

- 1 派遣期日 平成23年 10月26日(水)
2 研修先 学校名 仙台市立鹿野小学校
所在地 宮城県仙台市太白区鹿野2-9-1
<http://www.kanoshou@sendai-c.ed.jp>

3 研修内容

第37回 宮城県小学校特別活動研究協議大会 大会主題 自他の思いや願いを生かし、共によりよく生きる子どもを育てる特別活動

(1) 鹿野小学校 研究の概要

○ 本研究で目指す子ども像

(ア) 自分らしさを発揮する子ども (イ) 友達の思いや願いに共感すること (ウ) 貢献の心地よさを感じる子ども
--

(ア) 自分らしさを発揮する子ども

- ・自分のよさに気付いて自信をもち、自分を肯定的に受け止めることができる子ども
- ・問題や課題を進んで考え、自分の意見を伝えようとする子ども

(イ) 友達の思いや願いに共感すること

- ・みんなで話し合い、一緒に活動することによって自分たちの集団のよさを感じる子ども
- ・友達のよさを見つけ、そのよさを認めることができる子ども

(ウ) 貢献の心地よさを感じる子ども

- ・集団活動を通してだれかに感謝されたり、自分が認められたりすることによって満足感や成就感を感じる子ども
- ・自己肯定感や自己有用感を感じるができる子ども

○ 研究の視点

視点1 自分らしさを発揮させる指導方法の工夫

- ・自分の考えをもち、伝え合うことを大切にさせる話し合い活動
- ・自分らしさを発揮させる実践活動
- ・自分のよさに気付かせる振り返り活動

視点2 友達の思いや願いに共感させる指導方法の工夫

- ・他の考えを生かし、練り合うことを大切にさせる話し合い活動
- ・共に活動することに喜びを感じさせる実践活動
- ・集団の高まりを実感させる振り返り活動

視点3 貢献の心地よさを感じさせる指導方法の工夫

- ・目的意識や相手意識をもって考えることを大切にさせる話し合い活動
- ・だれかのために役に立つことを意識させる実践活動
- ・貢献の心地よさを感じさせる振り返り活動

○ 主題にせまるために

視点1 自分らしさを発揮させる指導方法の工夫

◇話し方の指導 ◇学級会ノートの活用 ◇学級会コーナーの活用 ◇場の設定の工夫
--



視点2 友達の思いや願いに共感させる指導方法の工夫

- ◇話し合いマニュアルの活用
- ◇司会団への指導・支援
- ◇学級会コーナーの活用
- ◇板書の工夫（板書の構造化・話し合いの可視化）



視点3 貢献の心地よさを感じさせる指導方法の工夫

- ◇振り返りの時間の確保
- ◇振り返りカードの活用
- ◇振り返り活動の工夫（学級だよりの活用，伝え合い活動等）

（2）公開授業参観

○第1学年1組 指導者 小野寺 晶 教諭

議題 にじいろスペシャルうんどうかいのしゅもくをきめよう

9月に行われた学区民運動会後、「もう一度，[つな引き][玉入れ][リレー][大玉転がし]をやってみよう」という声上がり，その思いをもとに自分たちで計画を立て、「にじいろスペシャル運動会」を実施する。「スペシャル運動会」では子どもたちが考えた種目を新たに追加することが大きな特徴であり，本時ではその種目の選定、決定までの過程を公開した。

○授業の様子

1年生の2学期であるにもかかわらず，児童は落ち着いた態度で話し合いに臨み，また進行していくことができていた。もちろん担任が流れや補助をしていたものの，児童は自分たちが考えた種目を「プレゼンテーション」で伝えその良さ、または改善点を堂々と発表することができていた。

話し合いの中で，論点がずれてしまう意見が出た。その際，担任は学級会の始めに確認した提案理由を児童達に言わせた。それは「【提案理由】みんなが楽しめる種目を考えて，みんなで力を合わせて『にじいろスペシャル運動会』をやれば，もっとみんなが仲良くなれるから」というものであった。発達段階において自分のやりたいことを押し通す傾向にある子どもたちを，学校生活では「みんな」という考え方が必要であり，また意識をもつことが大事であることをしっかりとおさえていた。

プレゼンテーション（コマーシャルタイム）では，実際に競技のやり方を見せることで分かりやすく相手に伝えることができていた。「ここはこんな風にやります」や「こうしたらもっと良くなると思います」など，話し合いの仕方が徹底されており，聞きやすかった。

最初に3つ種目が提案され，意見を練り合わせながら2つに絞り，最終的には1つの種目に決定していった。自分の考えていた種目ではないものに決まった時も，児童はきちんとその決定に納得し，喜び合っていた姿があった。それは本時のねらいがしっかりと達成できていたように見えた。自分の考えが採用されなかったときの担任の言葉かけによって，児童はその後の気持ちの矛先，取り組みが大きくかわっていく。担任はそれをしっかりと把握し，支援できていた授業であった。

4 感想

1年生と言えども，教師の支援により児童は生き生きと学級活動に取り組んでいた。公開授業ということもあり，それまでの様々な準備，練習はあったのかもしれない。しかしそのような過程を経てきたからこそ，授業ではスムーズに進行ができ，自分たちで計画，運営，実施をしていこうとする態度が伝わってきた。

東日本大震災を経験した仙台の児童は，より一層人との絆，助け合いの精神を身につけ，実践していく重要性を学び合っているように感じた。

学級活動の時間は年間計画のもと，児童が何を身につけ，どのように成長して欲しいかをしっかりと見据え，何度も振り返りながらも前へ前へ進んでいける大事な時間である。教師，担任として一時間一時間を大切に取り組んでいきたいと思う。